

A-102 種々の状態における血清リパーゼの変動について (オノ報)

実践女子大家政 ○石澤久

目的：血清リパーゼ測定は診断的価値が高く特に膵炎ではアミラーゼにおくれの上昇しアミラーゼが正常化したのちも高値を示すのでアミラーゼ値は正常であるが膵炎が疑はしむような例に血清リパーゼ測定により確実な診断をくだすことができる。従来の測定法は長時間を要し、その値が不正確なので膵炎の早期診断の役に立たない。私は血清遊離脂肪酸の微量迅速測定法である *Duncombe* 法の応用である *Dirastine* らの血清リパーゼ測定法 (1968) を検討し、これに若干の改良を加え、正常人と種々の疾患における活性値を比較検討した。

方法：基質 (オリーブ油) にリパーゼを含む血清を作用せしめ分解された遊離脂肪酸に対して *Iwayama* の銅試薬を加え脂肪酸を銅塩に変え、これに銅の呈色試薬であるジエチルジチオカルバミン酸ナトリウムを加えて生ずる黄褐色の色調を比色定量する。盲検にも同様の操作を行なって呈色試薬を加え発色せしめる。盲検との差をもつてリパーゼ活性値とする。

結果：*Dirastine* らはこの方法による正常人値を 6.7 m Mol/ml 以上としているが私の 65 例の平均は 3.2 m Mol/ml であつた。黄疸血清では、14 例の平均は 6.9 m Mol/ml で急性膵炎 2 例では 1.2 m Mol/ml 、慢性膵炎 3 例ではほぼ正常値であつた。胆石症では高い値を示すものと正常値を示すものとあつて一定でない。